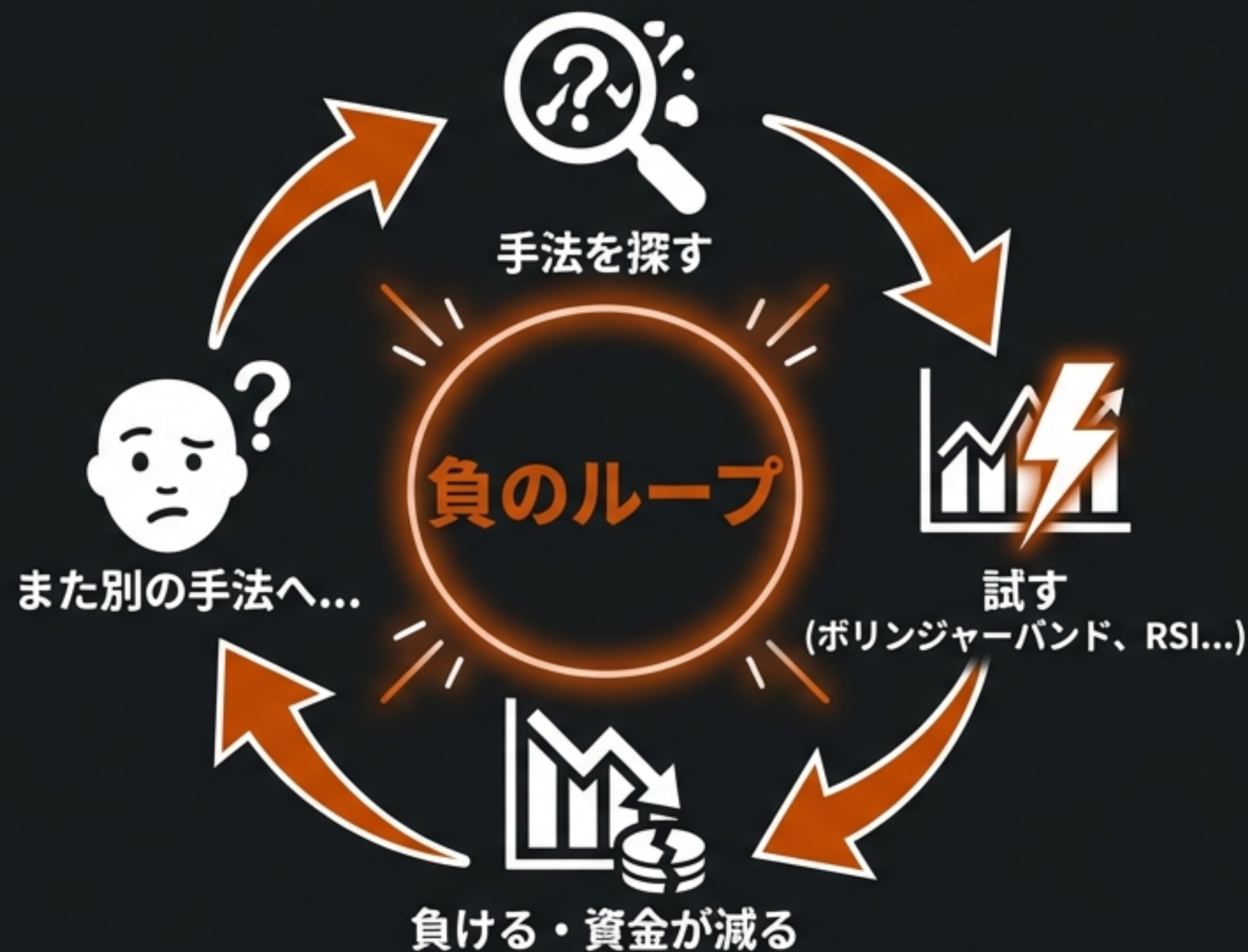


FX「手法迷子」からの脱出

なぜ、あなたの聖杯探しの旅は終わらないのか

元・手法迷子トレーダーの記録

この「負のループ」に陥っていませんか？



動画では勝てていたのに、自分がやると勝てない。チャートは複雑になり、資金は減り続ける。

「エントリー条件 = 手法」という大きな誤解

エントリー条件 $\neq$ 手法

- どこで入るか (Entry)
 - **どこで間違いと判断するか (Loss Cut)**
 - どこまで取る想定か (Profit Take)
- } 本来の手法

「入る理由」と「逃げる理由」が揃って初めて、それは「手法」になります。

シュートの打ち方だけを知っていても、試合には勝てない

サッカーで守備の戻り方を知らないのが致命的なように、トレードでも「ボールを奪われた時（逆行した時）」の対処が決まっていなければ、それは戦略ではありません。

サッカー



トレード

エントリー (Entry)

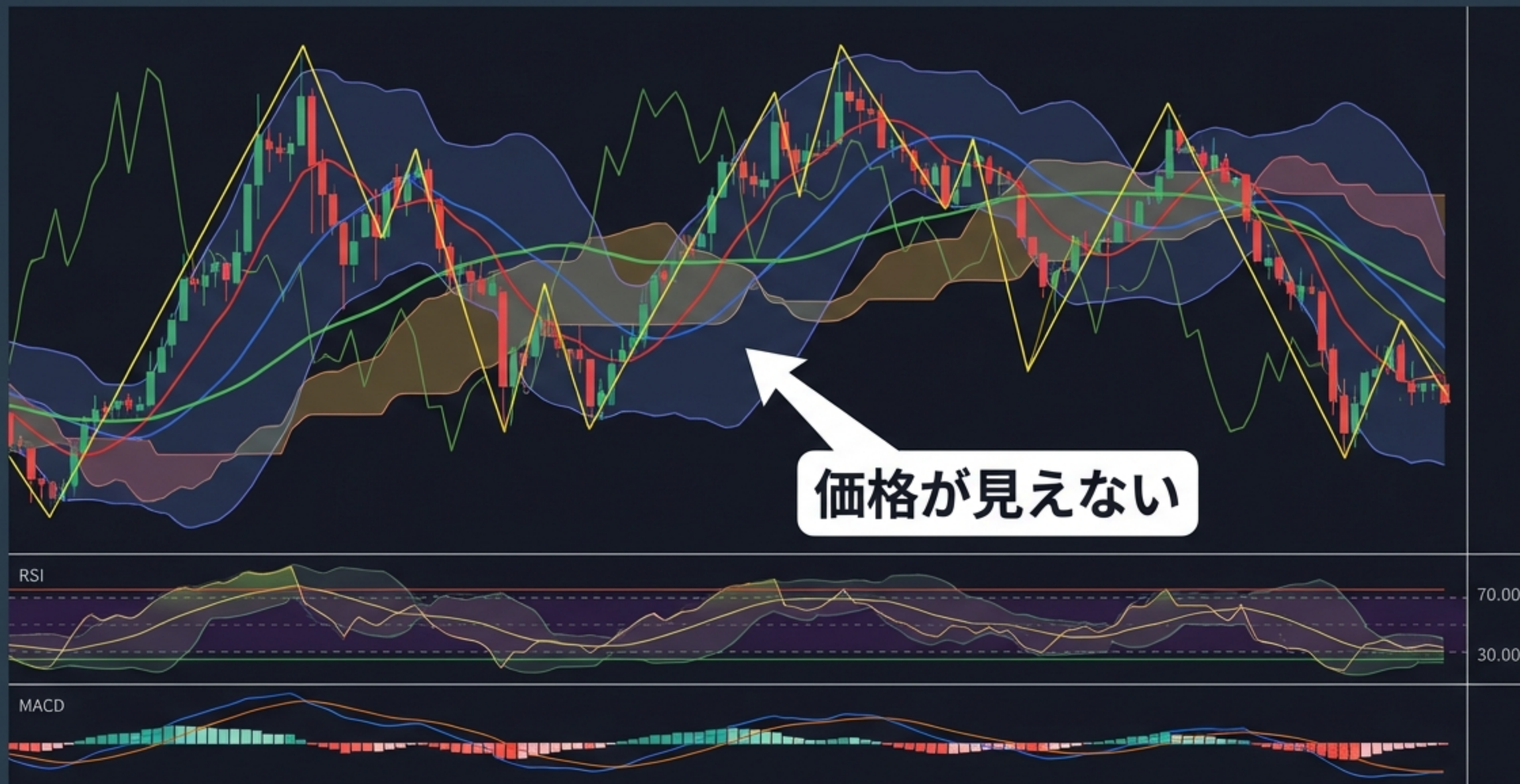
Buy ↑

「攻め」だけで
「守り」がない

The text is written in large, bold, teal characters. A large, light gray upward-pointing arrow is positioned behind the text, pointing from the wallet illustration towards the 'Buy ↑' button.



不安を消すために足したインジケーターが、真実を隠している



重要：価格が見えなくなったチャートで、どこが「間違い」なのか判断できますか？

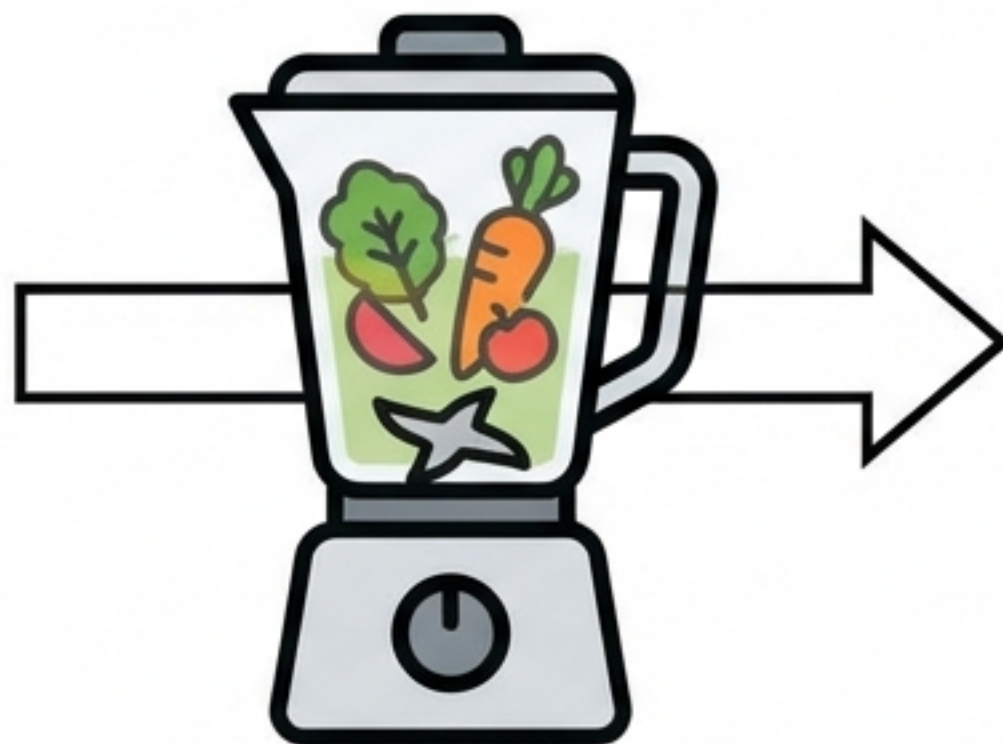
インジケータは「価格の加工品」に過ぎない

加工品（インジケータ）をいくら重ねても、元の野菜（現在の価格の勢い）は見えなくなります。チャートが汚くなるのは、「判断の軸」が存在しないからです。



生の価格データ
(ローソク足)

計算・加工



インジケータ

利確よりも先に、「損切りの根拠」を言語化する



損切りの理由が説明できないトレードは、ただの「我慢比べ」です。

損切りとは、金額ではなく「シナリオの否定」

01

なぜそこを割ったらダメなのか？

02

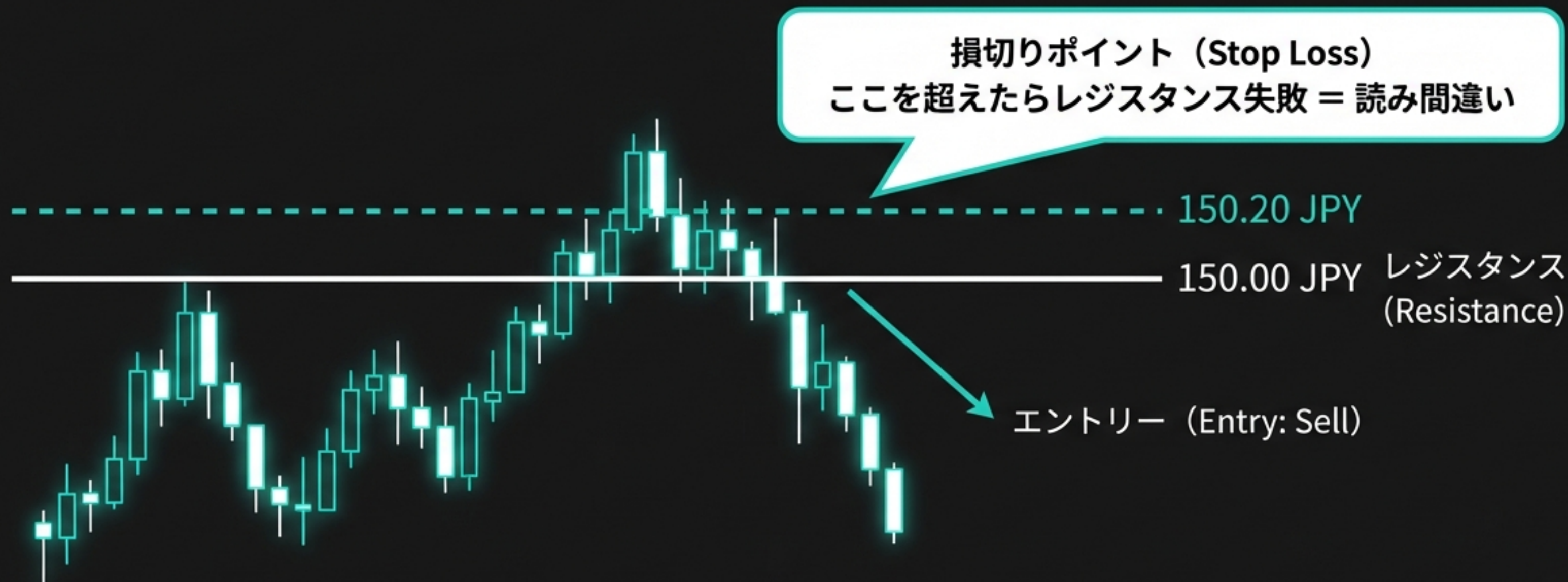
その価格を超えたら、誰のシナリオが勝つのか？

03

自分は何を否定されたのか？

「含み損が〇〇円になったら」ではなく、
「自分の想定が崩れたら」切るのです。

具体例：1ドル=150円の攻防



150.20円を超えた時点で「反落する」というシナリオは否定されます。
だからそこで切る。これが「根拠のある損切り」です。

「お祈りモード」から「技術的判断」へ

お祈りモード



- 「戻ってくれ...」
- 根拠なき我慢
- ギャンブル

技術的判断



- 「シナリオ崩壊。決済。」
- 事前の定義
- トレードスキル

勝ち組トレーダーへの「思考の切り替え」

思考の切り替え

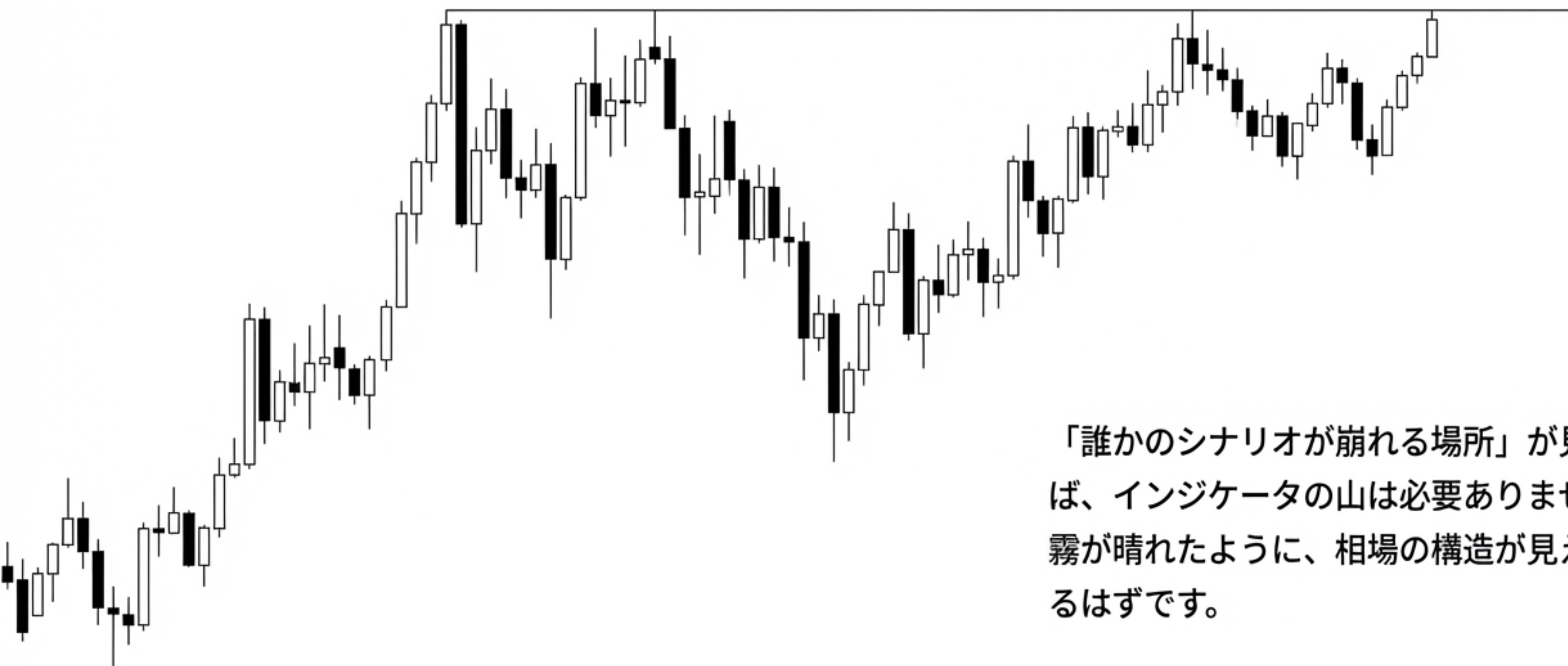
OLD

- ✕ どのインジケーターが正しいか
- ✕ どうやって勝つか
- ✕ エントリーのタイミング

NEW

- どこを割ったら自分が間違いか
- この場面で誰が負けるか
- 負けを認める根拠

思考が変われば、チャートは静かになる



「誰かのシナリオが崩れる場所」が見えれば、インジケーターの山は必要ありません。霧が晴れたように、相場の構造が見えてくるはずです。

本日のまとめ：迷子脱出の4ヶ条

1. エントリー条件だけでは手法ではない
2. インジケータだらけのチャートは判断軸不在の証
3. 利確より先に「損切りの根拠」を決める
4. 「どこで間違いを認めるか」を言語化する

トレードを「運ゲー」から「技術」へ



手法を探す旅はここで終わりにしましょう。

大事なのは、自分だけの「間違いを認めるポイント」を持つこと。
その一点を言葉にできた時、あなたのトレードは確かな技術に変わります。

焦らず、少しずつ土台を築いていきましょう。